

2017年3月期 決算概要（連結）

1. 業績の概況 当連結会計年度（自 2016年4月1日 至 2017年3月31日）（単位：億円）

	2016年度 (第12期) A	2015年度 (第11期) B	増減		2017年度 (第13期) 計画 ^{※2}
			金額 A-B	% A/B*100	
営業収益	9,075	13,003	▲3,927	69.8	12,041
高速道路事業	8,414	12,497	▲4,083	67.3	11,260
(料金収入)	6,649	6,575	74	101.1	6,310
(道路資産完成高等)	1,764	5,921	▲4,157	29.8	4,950
関連事業	661	506	155	130.8	780
(休憩所事業)	318	316	1	100.5	314
(その他事業)	343	189	154	181.4	466
営業費用	9,012	12,910	▲3,898	69.8	11,990
高速道路事業	8,400	12,464	▲4,064	67.4	11,250
(道路資産賃借料)	4,794	4,795	▲0	99.9	4,339
(道路資産完成原価)	1,757	^{※3} 5,953	▲4,196	29.5	4,950
(管理費用等)	1,848	1,715	133	107.8	1,961
関連事業	612	446	166	137.2	739
(休憩所事業)	267	263	4	101.7	275
(その他事業)	344	183	161	188.2	463
営業利益	63	92	▲29	68.8	50
高速道路事業	14	33	▲18	43.5	9
関連事業	49	59	▲10	82.7	41
経常利益	78	118	▲40	66.1	50
当期純利益^{※1}	112	79	33	141.9	189

実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

※1 当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を記載しております。

※2 2017年度計画は、2017年3月31日付けで国土交通大臣から認可された「平成29事業年度事業計画」を前提としております。実際の業績は、さまざまな要素により、上記計画数値と異なる可能性があることをご承知おきください。

※3 2015年度の高速道路事業営業費用（道路資産完成原価）には、高速道路に係る利益剰余金を活用して実施した事業（約40億円）が含まれています。

（注）当社グループは、経営組織の形態と事業の特性に基づいて、事業を以下のように区分しています。

事業	業務内容	
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
関連事業	休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
	その他（関連）事業	受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、不動産開発事業等

2. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

○ネットワークの整備

- ・新名神高速道路及び東海環状自動車道
四日市ジャンクション～東員インターチェンジ間 5.8km…2016年8月11日開通
- ・中部横断自動車道
六郷インターチェンジ～増穂インターチェンジ間 9.3km…2017年3月19日開通

(通期業績)

○営業収益は、8,414億円（前年同期比4,083億円減）となりました。

- ・料金収入は、6,649億円（同74億円増）でした。これは、2016年2月に開通した新東名高速道路の開通効果などにより交通量が増加したことによるものです。また、1日あたりの取扱通行台数は194万台（同1.5%増）でした。
- ・道路資産完成高等は1,764億円（同4,157億円減）でした。これは、前期のような新東名高速道路の新規供用といった大規模な新規開通がなかったことによるものです（前期開通 新東名高速道路55km）。

○営業費用は、8,400億円（同4,064億円減）となりました。

- ・道路資産完成原価は、1,757億円（同4,196億円減）でした。
- ・管理費用等は、1,848億円（同133億円増）となりました。これは、点検や維持補修など維持修繕費用が増加したことによるものです。

○上記の結果、営業利益は14億円（同18億円減）となりました。

(2) 関連事業

(実施した施策)

○魅力あるサービスエリアづくり

- ・東名高速道路EXPASA富士川（上り線）では、新たなランドマークとなる観覧車（Fuji Sky View）を開業しました。そのほか、お客さまのニーズをとらえた店舗リニューアルやオリジナルおみやげブランド「プレみや」の展開、インバウンド対応を進めるなどサービスエリアの魅力を高める取り組みを行いました。

○地域との連携

- ・近隣住民の方々にも魅力を感じていただけるエリアづくりとして、一般道からサービスエリアが利用できる「ぷらっとパーク」の拡充や、地元特産品の販売、地域食材を使用した地産地消メニューの充実、地域住民参加型のイベントの開催等、地域活性化や地域社会との連携強化に努めました。

○ドライブプラン（企画割引）の販売

- ・高速道路の周遊エリア内が定額で乗り放題となるなどの従来型のドライブプランの拡充に加え、観光施設等と連携した新たなドライブプランの販売を開始しました。

(通期業績)

○営業収益は、661億円（前年同期比155億円増）となりました。

これは、国・地方公共団体等から受託した工事出来高の増加によるものです。

○営業費用は、612億円（同166億円増）となりました。

これは、国・地方公共団体等から受託した工事出来高の増加によるものです。

○上記の結果、営業利益は49億円（同10億円減）となりました。

(3) 当期純利益

○当期純利益は、112億円（同33億円増）となりました。

2017年度（第13期）に発生する厚生年金基金の代行返上に伴い法人税等調整額▲68億円を計上したことによるものです。

以上